



年収の壁を取り払え

夫の扶養家族の女性が家計の足しにパートで働く年収一三〇万円の壁が立ちはだかる。

「壁」を超えると夫の

扶養から外れ、自国民年金と国民健康保険の保険料を払わなければならない。一三〇万円を少し超えたら手取り年収は減る。

雇用条件により、一〇六万円を超えると社会保険の保険料を払う事になる壁も。

「結婚したら女は低い賃金で働け」「年収は増えないから時給アップを要求するな」と云う女性蔑視の制度だ。

政府は「壁」を越えても二年は扶養にとどめたり「壁」を超えて下がる年収分を賃上げする事業者に助成する制度を考えていると云う。

ジェンダー平等な制度

それより妻が働いた

時、税金や保険料で夫婦の収入が減らない仕組みとすれば良い。

例えば、「妻の扶養控除」から「配偶者控除」

に変え妻の年収に無関係に控除する制度にすれば良い。国民年金や国保の保険料は現在の年収の「壁」以下なら保険料は免除し、その壁を越えた分に保険料を課せば良い。

こうしたら専業主婦が「これから働いてみるか」と云う気持ちになれるだろう。

自公政権は事業者への「助成」を考えているようだが、それは事業者、つまり資本家階級が損をしない為。

「労働者階級の利益を守れ」と発言すると「階級などとんでもない」と云うが、自民党こそ資本家の利益を守る階級政党ではないか。

あなたはどっと思われ
ますか？

子安運河にて

横浜市神奈川区子安通一丁目 富士見橋傍

二〇二三年九月



2023.9.24 徹

絵を描く場所を求めて歩いていたら私と同年代の方に会った。聞くと「昔、この漁師でね、底引き漁で蝦蛄、鰯等をとっていた」と云う。

運河沿いの漁師の家はとても小さいが、今は船を出す機能だけで、住まいを別にしているらしい。

「大正丸」と名がついた古い船には錆びた屋根。浮かぶ作業所だろうか？船先が折れた右手の船も作業所となっている様子だった。

絵を描いているとたも網で岸辺を探る人。数十の小エビを捕ってハゼ釣りの餌にすると云う。やがて釣りを始めると糸を垂れて一分もしないでハゼが釣れた。唐揚げにすると云う。

一九七〇年代は公害で汚れていたが、今は水も澄んでいる。

多忙な為、暫く休んだり、不定期発行となります

